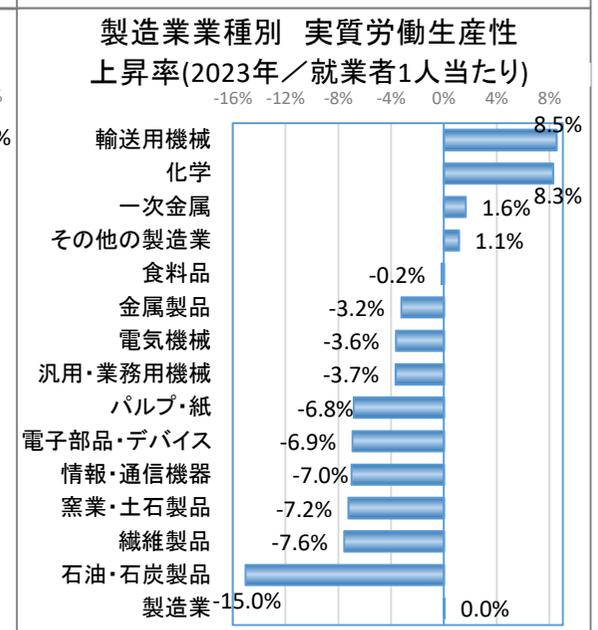
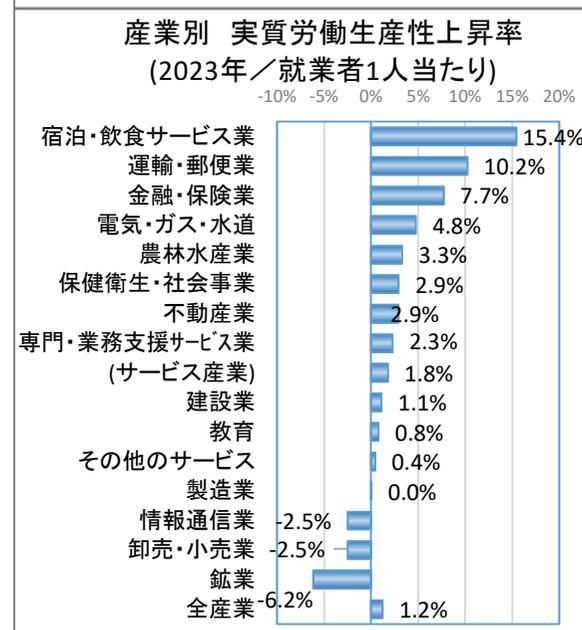
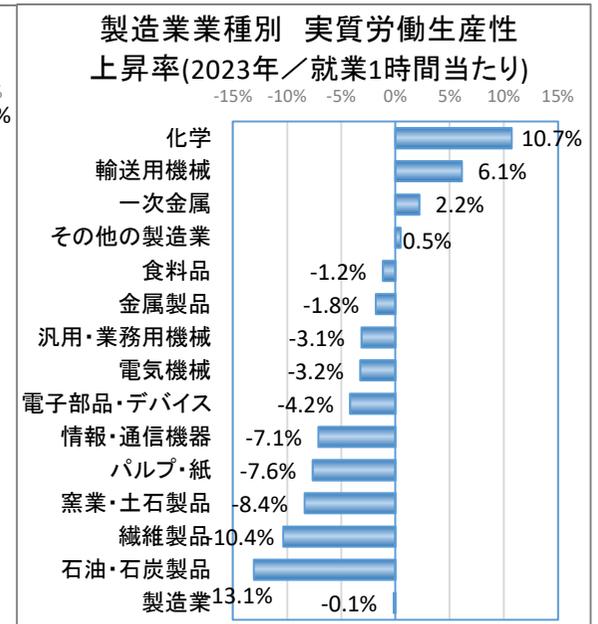
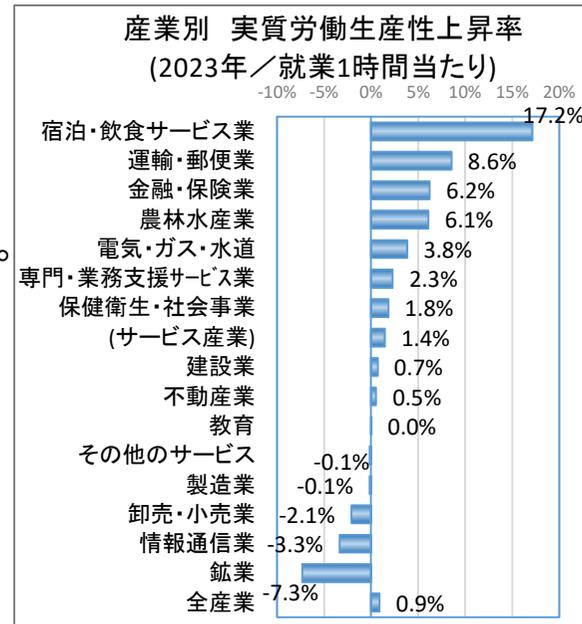


主要産業の労働生産性上昇率

- 2023年の実質労働生産性上昇率は、宿泊・飲食サービス業が就業1時間当たり(+17.2%)、就業者1人当たり(+15.4%)ともに最も高かった。
- サービス産業は就業1時間当たりが+1.4%、就業者1人当たりが+1.8%。宿泊・飲食サービス業や運輸・郵便業、金融・保険業が好調だったが、一方で鉱業や情報通信業などで前年比マイナスになっている。
- 製造業では、就業1時間当たりで-0.1%、就業者1人当たりで±0%。いずれの指標でも、輸送用機械や化学、一次金属などの上昇率が高くなっている。逆に、石油・石炭製品や繊維製品、窯業・土石製品などをみると上昇率がマイナスになっている。



※内閣府「国民経済計算」をもとに日本生産性本部作成 ※サービス産業: 電気・ガス・水道、卸売・小売業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、専門・業務支援サービス業、教育、保健衛生・社会事業、その他のサービスにより構成